

# 景気動向等情報

令和5年2月1日

## 1. 全国の経済状況

### (我が国経済の基調判断)

景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・個人消費は、緩やかに持ち直している。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・輸出は、このところ弱含んでいる。
- ・生産は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・企業収益は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している。企業の業況判断は、持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は、持ち直している。
- ・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

### (政策の基本的態度)

足下の物価高などの難局を乗り越え、日本経済を本格的な経済回復、そして新たな経済成長の軌道に乗せていくべく、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」及びそれを具体化する令和4年度第2次補正予算について、進捗管理を徹底し、迅速かつ着実に実行するとともに、令和5年度予算及び関連法案の早期成立に努める。

今後とも、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を一体的に進める経済財政運営の枠組みを堅持し、民需主導の自律的な成長とデフレからの脱却に向け、経済状況等を注視し、躊躇なく機動的なマクロ経済運営を行っていく。

日本銀行には、経済・物価・金融情勢を踏まえつつ、2%の物価安定目標を持続的・安定的に実現することを期待する。

## 2. 九州の経済状況

九州地域では、景気は緩やかに持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

前回調査からの主要変更点

	前 回 (令和4年9月)	今 回 (令和4年11月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	↑

## 3. 中小企業の景況

中小企業の業況判断D Iは、2期連続して低下した。

- (1) 2022年10-12月期の全産業の業況判断D Iは、▲22.9（前期差3.4ポイント減）となり、2期連続して低下した。
- (2) 製造業の業況判断D Iは、▲19.2（前期差4.0ポイント減）となり、2期連続して低下した。業種別に見ると、家具・装備品、輸送用機械器具、電気・情報通信機械器具・電子部品など4業種で上昇し、パルプ・紙・紙加工品、食料品、木材・木製品、繊維工業など10業種で低下した。  
(参考) 調査対象企業のコメント (例)
  - ・ 原材料価格の上昇に加え、燃料・電力料金高円安等の影響で収益的に厳しい状況が続く。価格への転嫁にも限界がある。[パルプ・紙・紙加工品 愛媛]
- (3) 非製造業の業況判断D Iは、▲24.0（前期差3.0ポイント減）となり、2期連続して低下した。産業別に見ると、サービス業、小売業、卸売業、建設業のすべての産業で低下した。  
(参考) 調査対象企業のコメント (例)
  - ・ 長引く物価高や円安による仕入単価の上昇に歯止めがかからず、運送単価の交渉にも、なかなか応じてもらえないことで経営状態は悪化している。また、慢性的な人手不足も解消されず、苦慮している。[対事業所サービス業 宮崎]
- (4) 全産業の長期資金借入難易度D Iは、▲6.6（前期差0.4ポイント減）と2期連続して低下し、短期資金借入難易度D Iは、▲4.5（前期差1.0ポイント減）と2期連続して低下した。

### <トピックス①>

全産業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）は、74.8（前期差4.2ポイント増）と10期連続して上昇した。産業別に見ると小売業、サービス業、卸売業、建設業、製造業のすべての産業で上昇した。

(参考) 調査対象企業のコメント (例)

- ・原材料価格の上昇と電気・ガス料金の大幅上昇による大幅なコストアップが経営に与える影響が非常に大きいですが、販売単価を上げる事については、特に大口顧客の理解が得にくい状況が続いている。[印刷 佐賀]

<トピックス②>

全産業の従業員数過不足D I（今期の水準）は、▲22.6（前期差2.4ポイント減）と3期連続して低下し不足感が強まった。産業別に見ると、卸売業、製造業、サービス業、建設業、小売業のすべての産業で低下した。

（参考）調査対象企業のコメント（例）

- ・全国旅行支援の影響で好転している。ただし、従業員が不足しており、予約を完全に受け入れられる状態になっておらず、せっかくの収益アップのチャンスを逃している状態にある。[宿泊業 宮城]

#### 4. 小規模企業の動向（業種別）

＜産業全体＞◇売上額は増加するもコスト高から採算・資金繰りが低水準で推移する小規模企業景況◇

1 1 月期の産業全体の業況は、前期と比べ売上額・採算・資金繰り D I がわずかに改善したが、業況 D I は若干の悪化に転じた。前月に続き人流の回復傾向を受け、売上額 D I が改善した業種も多かった。その一方で、コスト高の問題は価格転嫁が進んでおらず解決の目途が立っていない。資金繰りがうまくいかず、廃業を考えているとのコメントなど、景気回復の兆しが見えないことを不安に思うコメントが目立った。

＜製造業＞◇…売上増加で、明るい兆しが見えるも、採算性の悪化から抜け出せない製造業…◇

製造業は、直近 1 年間で初めて売上額 D I がプラスに転じ、採算・資金繰り D I が小幅に改善した。食料品関連は、年末のイベント需要が重なり、売上額 D I が 5 期連続で改善している。繊維関連は、採算・資金繰り D I が大幅に改善した。旅館関係の取引先をもつ事業者が好調である、とのコメントがあった。機械・金属関連は、売上額 D I が直近 1 年間で最も改善し、資金繰り・採算 D I も大幅に改善した。年末にむけて高単価の受注が伸びている。

＜建設業＞◇…受注が好調であるも、原油・原材料費高の影響から利益の出ない建設業…◇

建設業は、全 D I が小幅に改善し、売上額 D I はプラス水準となり、前年同月比 2 桁 p t 超の改善となった。公共、民間ともに安定した受注があり、資材の納品サイクルが改善され着工が進むなど、業界を取り巻く状況は上向きつつある。その一方で、資材や燃料の仕入価格上昇に対し価格転嫁が進まず、採算・資金繰り D I が低水準で推移し、利益の出ない経営状況に陥っている。

＜小売業＞◇…消費の冷え込みに採算性悪化と、深刻な状況にある小売業…◇

小売業は、売上額 D I がわずかに悪化、採算・資金繰り D I が小幅に悪化、業況 D I が大幅に悪化した。特に採算・資金繰り D I は直近 1 年間で最も悪化した。円安による物価高が、消費の停滞に大きく影響し始めた。衣料品関連や耐久消費財関連は、全 D I が悪化した。消費順位が低い買回り品は、物価高が売上に影響している、とのコメントがあった。食料品関連は採算 D I が直近 1 年間で最も低い数値となった。小売業全体が物価高とコロナ第 8 波による消費の冷え込みで売上が低下し、さらにはコスト高の影響から採算性が悪化する深刻な状況である。

＜サービス業＞◇…旅館関連が全体を牽引するも、業種により効果が限定的であるサービス業…◇

サービス業は、採算 D I がわずかに悪化に転じたが、売上額・業況 D I が直近 1 年間で最も改善した。旅館関連は業況 D I が小幅に改善し、全国旅行支援の実施などがサービス業全体を牽引している。その一方で、クリーニング関連は、全 D I が悪化した。物価高による消費の冷え込みや、コスト増で利益が確保できない、といったコメントが多い。理・美容は、前月から D I 値にほぼ変動がなく、比較的安定している。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比
売上額	▲ 2.2	▲ 0.7	1.5	▲ 1.1	1.4	2.5	▲ 1.4	3.3	4.7
採算	▲ 46.2	▲ 46.2	1.0	▲ 54.0	▲ 50.1	3.9	▲ 53.9	▲ 49.0	4.9
資金繰り	▲ 35.6	▲ 35.0	0.6	▲ 42.9	▲ 39.3	3.6	▲ 37.8	▲ 35.5	2.3
業況	▲ 30.1	▲ 30.8	▲ 0.7	▲ 34.8	▲ 35.1	▲ 0.3	▲ 33.2	▲ 30.8	2.4

業種	小売業			サービス業		
	10月	11月	前月比	10月	11月	前月比
売上額	▲ 12.4	▲ 13.8	▲ 1.4	6.0	6.2	0.2
採算	▲ 50.8	▲ 54.9	▲ 4.1	▲ 26.2	▲ 26.9	▲ 0.7
資金繰り	▲ 40.3	▲ 43.9	▲ 3.6	▲ 21.4	▲ 21.5	▲ 0.1
業況	▲ 38.7	▲ 44.2	▲ 5.5	▲ 13.7	▲ 13.4	0.3

注：D I（景気動向指数）は各調査項目について、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。

## 5. 佐賀県内の動向

### ●個人消費

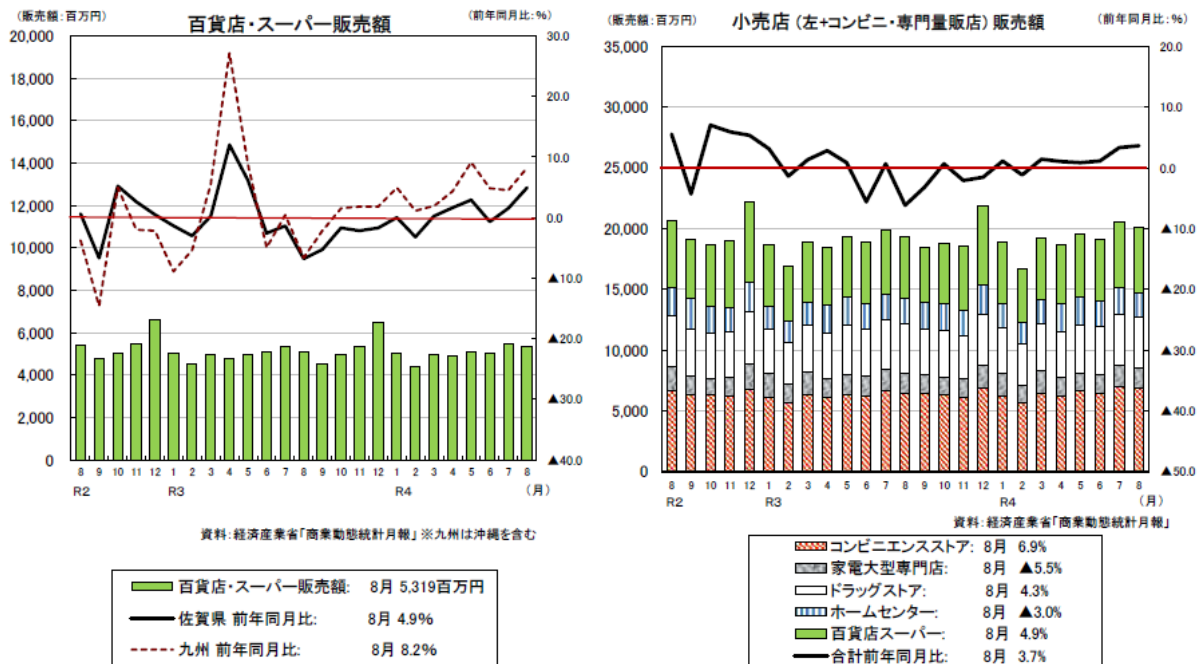
[百貨店・スーパー販売額 令和4年8月]

8月の百貨店・スーパー販売額は前年同月比4.9%増であり、2か月連続でプラスとなった。

[百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、専門量販店販売額 令和4年8月]

8月の百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの合計販売額は前年同月比3.7%増であり、6か月連続でプラスとなった。

分類別では、コンビニエンスストアが6.9%、ドラッグストアが4.3%増加したのに対し、家電大型専門店が5.5%、ホームセンターが3.0%減少した。

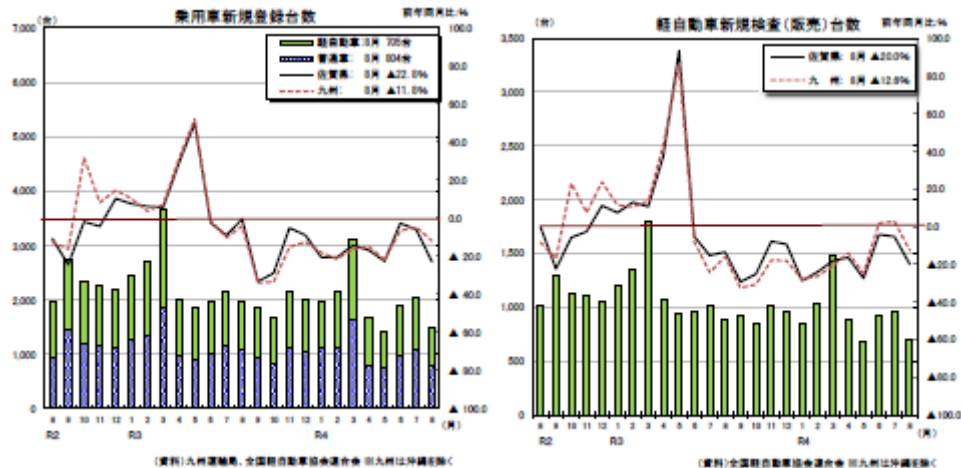


[乗用車新規登録台数 (軽自動車を含む) 令和4年8月]

8月の乗用車新規登録台数は前年同月比22.8%減であり、15か月連続でマイナスとなった。

[軽自動車新規検査(登録)台数 令和4年8月]

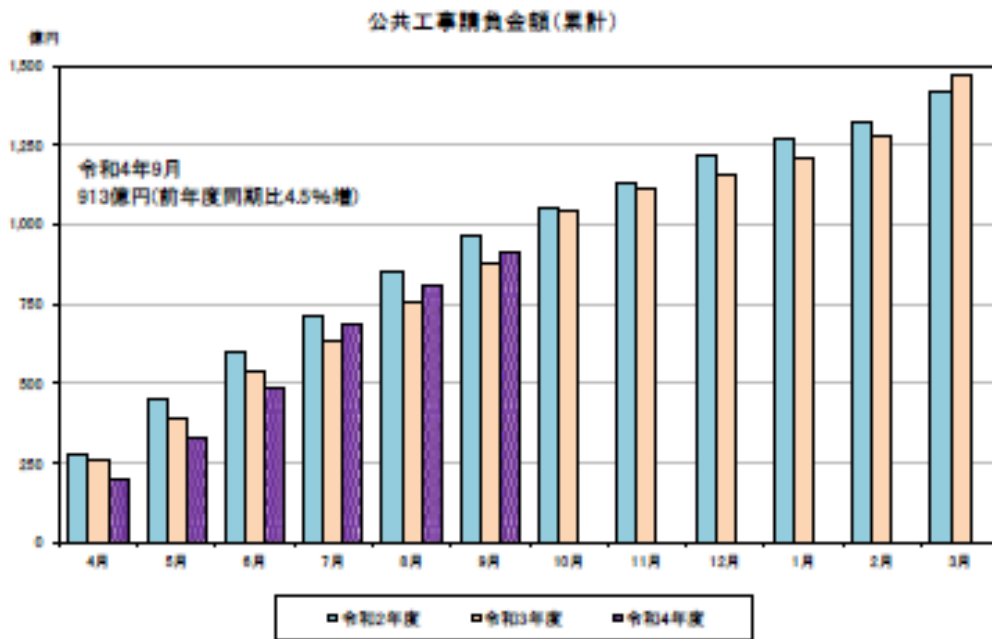
8月の軽自動車新規検査台数は前年同月比20.0%減であり、15か月連続でマイナスとなった。



●公共工事

[公共工事請負金額 令和4年9月]

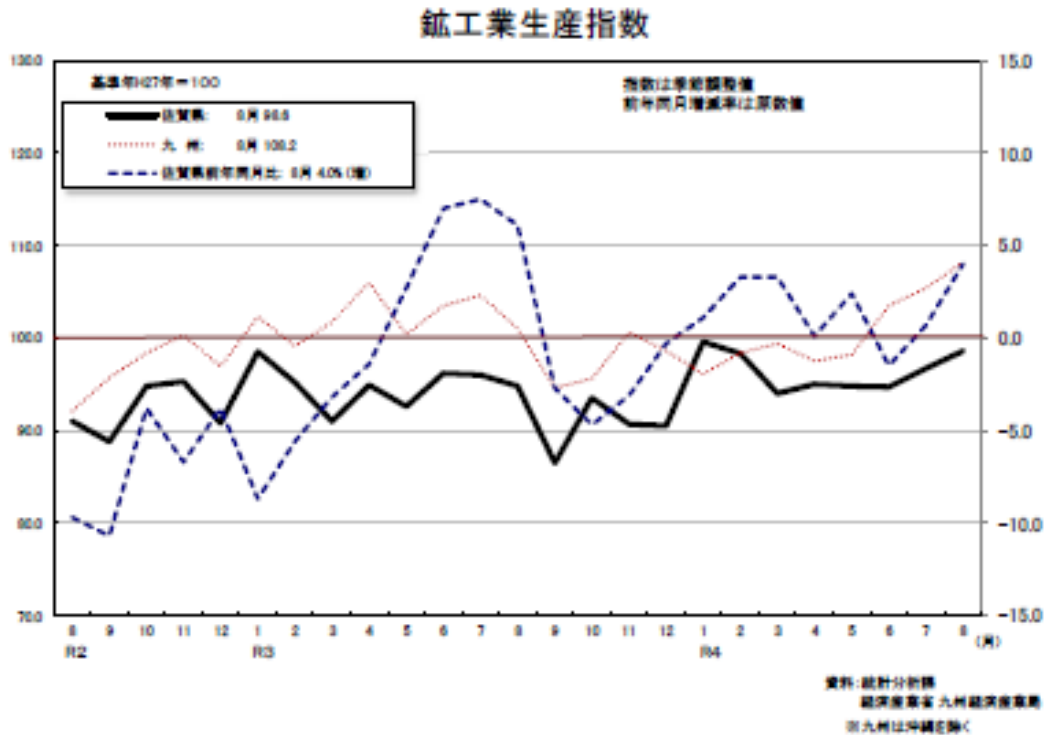
本県の公共工事請負額は今年度9月までの累計で前年度同期比4.5%増であった。



●生産活動

[鉱工業生産指数 令和4年8月]

8月の鉱工業生産指数は98.6、前年同月比4.0%増であり、2か月連続でプラスとなった。



●雇用情勢

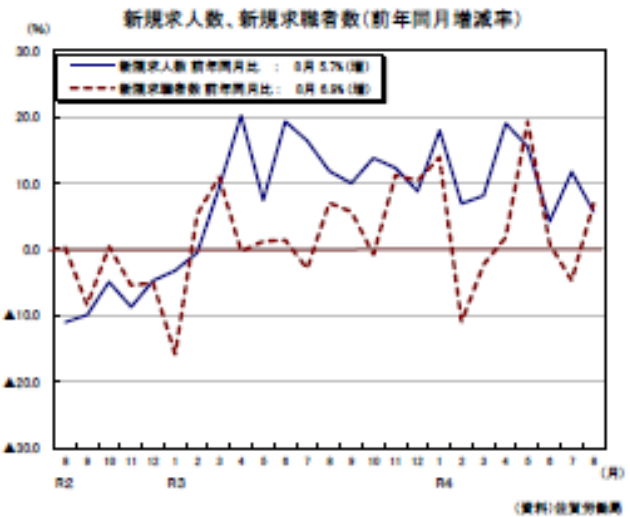
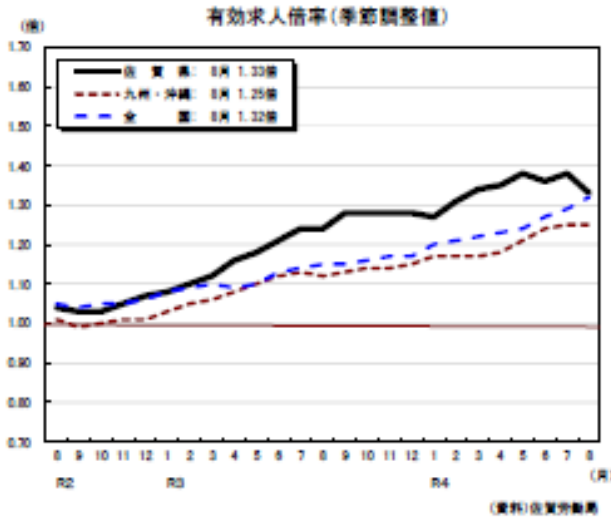
[有効求人倍率（受理地別） 令和4年8月]

8月の有効求人倍率（季節調整値）は1.33倍で、前月より0.05ポイント低下した。

[新規求人数、新規求職者数 令和4年8月]

8月の新規求人数は前年同月比5.7%増であり、18か月連続でプラスとなった。

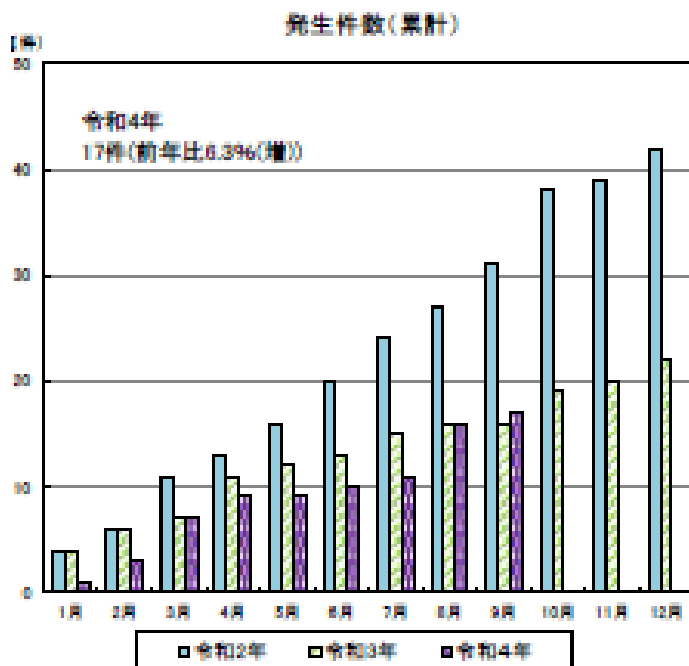
8月の新規求職者数は前年同月比6.9%増であり、2か月ぶりにプラスとなった。



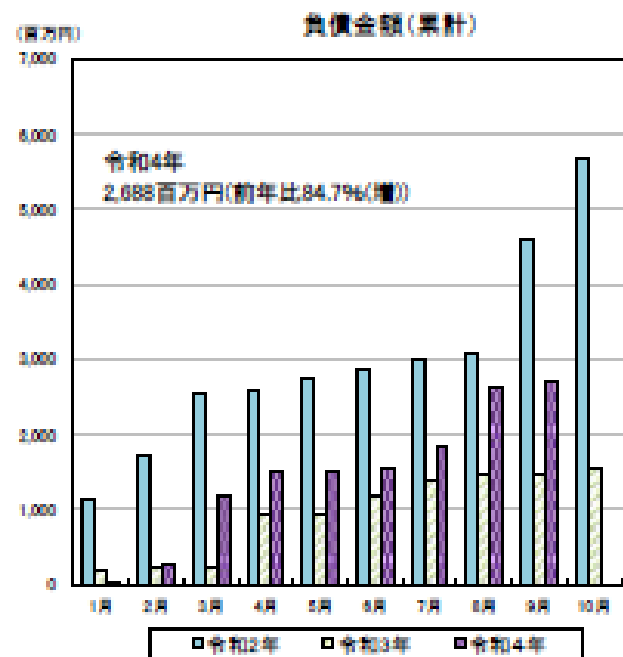
●企業倒産

[企業倒産件数と負債金額 令和4年1月～9月]

令和4年1～9月の企業倒産件数は17件で前年同期比6.3%増、負債金額は2,688百万円で前年同期比84.7%増であった。



(資料)株式会社東京商工リサーチ 位置支店



(資料)株式会社東京商工リサーチ

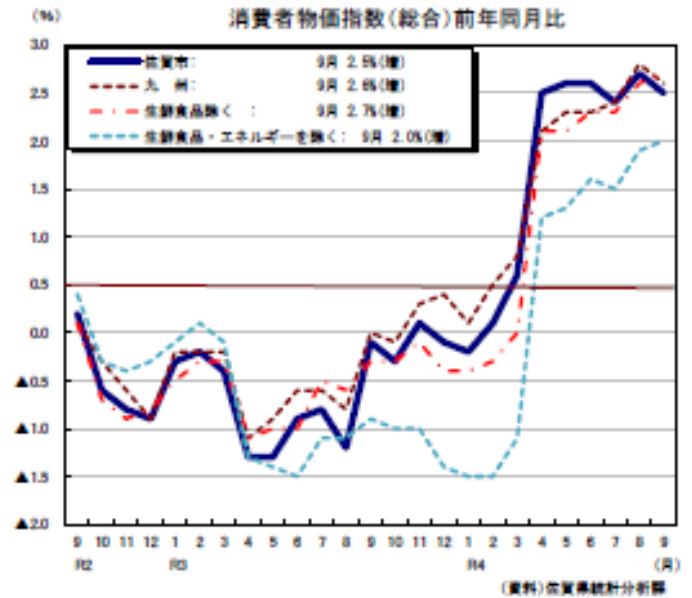
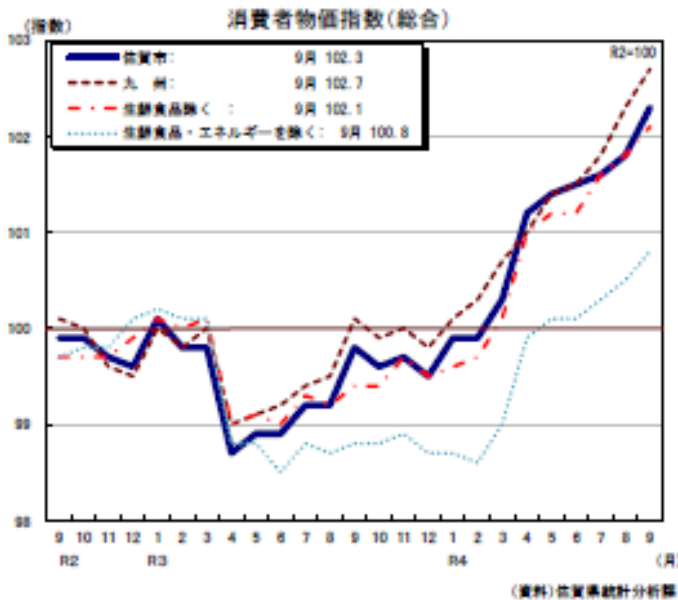


●物価

[消費者物価指数(佐賀市：令和2年を100とした場合)令和4年9月]

9月の消費者物価指数は、総合指数が102.3であった。前年同月比2.5%増であり、8か月連続でプラスとなった。

また、生鮮食品を除いたコア指数は102.1、生鮮食品・エネルギーを除いた指数は100.8であった。



参考文献

- 内閣府「月例経済報告」令和5年1月25日
- 中小企業庁「中小企業景況調査」令和4年12月13日
- 全国商工会联合会「小規模企業景気動向調査」令和4年12月23日
- 佐賀県「各種経済指標」令和4年11月